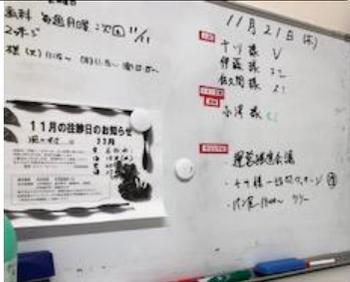


2019年度 生活クラブ風の村 自主監査報告書

報告事項		内 容	
被監査事業所名		生活クラブ風の村グループホーム作草部	
監査実施日		2019年 11月 21日 (木)	
監査結果		<p>< 監査人の総評 > 2ユニットのグループホーム*1で6人の職員が対応していた。 認知症のご利用者への対応はとても自然で、問題行動*2だと思われる場面でも何気なく寄り添い、受け入れながらとても良いケアがされていると感じた。</p> <p>< 被監査事業所のコメント > レクリエーションに大きな課題があると感じている。買い物や散歩等は多く取り入れているが、室内でのレクリエーションが少なく、改善していかなくてはいけないと感じている。評価されている点も事業所会議にて共有していく。</p>	
監査項目		監査人	被監査事業所 グループホーム作草部
大項目	中項目	【観察と聴き取りによるGOODPOINTと改善が必要と思われる点】	【回答 改善策(期日)】
K A Z E G R A M (風の村業務マニュアル)	①往診予定者リストアップについて	リストあり。訪問看護師より情報が送られている。全員で確認している。	
	②報告と記録について	ユニット申し送りで変更又は 往診者リストアップで確認をしている。サインで確認	
	③利用契約書について	個別にファイルされ、台帳一覧が表紙裏にあり整理されている。 	
	④要介護認定に伴う申請について	ケアマネジャーが代行しKAZEGRAMIに従って行っている	
	⑤ユニット会議整について	回覧、定例会に全員が出席する為に月一で全員出勤の日を作っている。	
	⑥服薬介助について	薬剤師がご利用者毎にセット。 夜勤が昼夜セットしている。 	
ご利用者アンケート	1.十分な説明	十分あった、が全数を占めている。	
	2.サービス計画書の要望	実数が分散している。	

2019年度 生活クラブ風の村 自主監査報告書

監査項目		監査人	被監査事業所 グループホーム作草部
大項目	中項目	【観察と聴き取りによるGOODPOINTと改善が必要と思われる点】	【回答 改善策(期日)】
ご利用者アンケート	4.苦情 5.非常時 災害時の対応方法	知らない、受けていないの回答が多い。	苦情は今年度上がって来ていないが、苦情事故件数等については、定期的 に開催している運営推進会議にて報告している。 すべてのご利用者家族へ周知できるように改善していく。また、非常時、災 害時の対応の周知等については、家族への2月～3月のお手紙等に記載し 周知していく。
	14.レクリエーション(体操・ゲー ムなど)活動や趣味活動は楽し いですか	レクリエーションや趣味の活動などやってみようという意欲はあるが、施設は積極的ではない。 最近では全員の部屋で座りっぱなしなのが気になる。(アンケート記載から)	レクリエーションの内容や回数など課題と感じている。 1～2月事業所会議にて問題を定義し検討している。 遊びリテーション、笑いヨガを積極的に進める。ボランティアさんへの依頼、 ユニット調理を増やしていくことで、できることやれることを増やしていく。
10の 基本 ケア	1. 換気を行う	食事後 昼食の後に行っている	
	2. 床に足をつけて正しい座位を とる	入居時に下腿長を測って座ってもらっている。椅子については、場所でご利用者が覚えて いる。	
	3. できるだけトイレで用を足す	オムツ無、リハパン パッドで介助を行っている。	
	4. あたたかい食事をする	ご利用者と共に盛り付けをしている。	
	5. できるだけ普通のお風呂に入 る	週2回以上個浴で対応	
	6. 質の高い認知症ケアを行う	ユマニチュード*3を意識したケアを行なっている。外部研修なども積極的に参加し、言葉 使いにも注意している。ご利用者への問いかけも「どうしたの?」と優しく聞いている。	
	7. お出かけを楽しむ	月一回以上外出している。	
	8. やりたいことを見つけ、実現で きる手助けをする	編み物や散歩を個別で行っている。	
	9. 本人・家族が参加してケアプ ラン作りをする	家族が週2回散歩の位置づけをプランに入れている。往診、看護も入れている。	
	10. ターミナルケアをする	看取りの実績はないが指針の準備がある。	
接 遇	身だしなみ	華美な服装はなし	
	言葉遣い	丁寧で、目を見て話しかけていた。	
	環境	ご利用者がお茶を持って廊下を歩けば、職員も一緒に側で見守り安心な環境を作ってい る。利用者はホームでの過ごし方に不安を持っている。	
情報共有(職員間)		申し送り 会議録、kintone*4は使っていない。申し送りには、目につきやすい絵(漫画・イ ラスト)があり、意識づけ等がされている。	

*1 要支援2以上の認知症高齢者を対象にした小規模の介護施設。ユニットと呼ばれる単位に分かれ、家事などを役割分担しながら共同生活を行う1ユニットは最大9名で構成される。

*2 認知症の人に見られる徘徊や見当識障害、暴力行為、情緒不安定、弄便、異食、独語などといった行動。現在は周辺症状(BPSD)と呼ばれている。

*3 ユマニチュード その人の「人間らしさ」を尊重し続けること。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱でご利用者とのよい関係性を築きあげていくこと。

*4 サイボウズ社が提供する職員間のコミュニケーションシステム。パソコンやスマホなどを通じて情報発信や共有ができる。